

期間 2014年8月29日（金）～9月3日（水）

概要

2014年8月20日未明より雷と共に降り始めた豪雨は5時には287m(北区可部南／東地区)に達し、観測史上3位を記録する。市は前日16時03分に大雨洪水注意報を発表、21時26分に警報に切り替えている。20日となり1時15分、土砂災害警戒情報、1時21分洪水警報発表している。

広島市全体の被害は死者72名、負傷者44名、行方不明2名、被害戸数は全壊24、半壊41、床上72、床下193の被害となっている（9月4日広島市）

救援にはいった地区、可部東6丁目自治会今田自治会長によると、
「2時ごろから逃げ始める人がいた。3時すぎに地区を巡回するとゴーという轟音と共にバキバキと木々が折れる音が真っ暗な中で、鳴り響いた。電話連絡で、家から出ないように住民に指示するが、3分の1ぐらいの住民に電話した所で3時55分に断線した。可部東6丁目の場合、ほとんどの住民が家の中に居て助かった。へたに出れば土石流に流されていたかもしれない。宅地の最上部の家は裏山が崩れて家族5人が土砂に埋まる。4人は土砂の中から助け出されるが1名が死亡。家ごと濁流に流された家屋は外に避難していたために災難を逃れている。会長は断線して私の指示が伝わらなかったのが幸いであったという。また消防士（53歳）と助け上げられた幼児（3歳）が発生した土石流に巻き込まれて共に亡くなっている。全体で3名（住民2）死亡。

（可部東6丁目現場にて9月3日）

災害ボランティアコーディネーター（学生）の派遣



写真：可部東チームに指示する宮下さん

RQ 災害教育センターからこれまで2度の災害時におけるボランティア活動の経験、特に都留市の雪害ボランティアコーディネーター経験を生かすため、都留文科大学4年（比較文化）の宮下凌瑚さんをRQ 災害教育センターからRQ 広島のコーディネーターとして現地へ派遣する。

活動の記録

1 避難所、ボランティアセンターサテライト訪問

8月29日

1-1 安佐北区ボランティアセンターと管轄する避難所、ボランティアセンターサテライト

大林小学校（VC サテライト）11 ・三入小学校（VC サテライト）20 ・三入東小学校64
・可部小学校 67

※数値は8月29日現在公表の避難者数

広島修道大学, RQ 広島代表 西村仁志さんと訪問

大林小学校, 三入小学校避難所ボランティアセンターサテライト: 自主防災会が全ての地区内の被災情報を把握しており、ボランティアサテライトを開設している。この2カ所では直接ボランティアを受け入れて現場に繋いでいる。避難所自身の運営は広島市が行い、職員が駐在して、届け出などの窓口を開設している。

8月30日

1-2 安佐南区ボランティアセンターの管轄する避難所

- ・山本小学校 18
- ・山本集会所 4
- ・梅林小学校 507
- ・佐東公民館 323
- ・八木小学校 107
- ・緑井小学校 70

※数値は8月29日現在公表の避難者数

安佐南区社会福祉協議会会長寺尾一秀、ANT-HirosiHma 理事長渡辺朋子、広島自然学校代表、志賀誠治さんと訪問



写真: 507人が避難する梅林小学校

寺尾、渡辺両さんにお伺いすると

梅林小学校は29日の時点で507名と避難者も最も多い地区であり避難所経営は混迷している。ボランティアの現地受付はやっていない。相談窓口も開設されているが、毎日人がかわると行かなくなる傾向がある。

社会福祉協議会を通さない“勝手にやっている”ボランティアの中には避難所の弁当に並んでいる者がいる。立ち入り禁止区域に入っただけの作業をしている。留守宅に勝手に入って作業している者

もあり警察が注意している。

県外からのボランティアは受け入れていないので、天理教の団体がテント持参で来られたが帰ってもらった。呉から来た団体は既にボランティア受付を終了(受付時間8時30分~9時00分)していたので帰らねばならなかった。

田や水路の掃除に関するニーズがあるが対応していない。83歳の住民(女性)が相談に訪れて1時間半ばかり水路が潰れたので来てほしいという話をした。現地調査もまだできておらず、社協が行なうボランティアは生活復旧であり、災害復旧までする必要があるのかという問題がある。

安佐南のVC本部は無力感がある。事務局長も目一杯の状態となっている。



写真: 八木小学校でのボランティア受付

(NPO 法人コミュニティーリーダーひゅーるぽん、及び各避難所にて8月30日)



写真：自衛隊仮設風呂，三入小

自衛隊が臨時の風呂を南区は梅林小学校、北区は三入小学校の2箇所で設営していた。自衛官に聞くと1箇所で1日20人ほどしか利用者が無い状態であった。被害が局所的であり、市内の入浴施設も空いているのも一因と考えられる。

2 支援活動

2-1 RQ 広島ボランティアセンターの設置、運営

8月29日より北広島町今吉田にある、ろうきん森の学校内に、市民によるボランティアセンターを設営し、RQ 災害教育センターのメンバーである修道大学准教授西村仁志を中心に被災地域での支援活動を開始した。

RQ 広島は地元組織として安佐北ボランティアセンター運営の一員として安佐北区社会福祉協議会と共に活動する。



写真：RQ 広島をろうきん森の学校に設置

2-2 安佐北ボランティアセンター内、相談窓口

RQ ひろしまが受け持ち、来訪者のお話を聞いてニーズ係へと情報を繋ぐ役割を担った。ニーズは来訪と電話の2系統で受け付けられ、ニーズ受付票に書き込まれる。受付票は翌日、マッチングに渡されてボランティアが振り分けられる事になる。



写真：相談コーナーの河野さん（広島）

2-3 8月30, 31日 安佐南区の医師宅泥だし作業

地域医療に長年従事して来た医師が、災害後は自宅の被災を省みず、避難所を奔走している。そこでこの医師宅の泥だしをVCの別枠で作業に入ることになった。2日間RQ 広島からボランティアを送った。



写真：RQ のビブスが久々に活躍

2-4 アイアイネット フードバンク広島 ボランティア食堂の支援 9月2日

ボランティアに北VCの近くで火曜、金曜の週2日無料で昼食を提供している団体に2人派遣する
「2014年9月2日、まめnan レストラン、「みなさんでごいっしょランチ」のメニューは、まめnan
うどん、ゴーヤの卵とじ、おむすび、冬瓜の酢の物、ナスとピーマンの肉味噌炒めでした。
RQひろしまの方々に食品整理などお手伝いいただきました！」

<http://www.aiainet.org/shien.html> 9月4日閲覧

2-5 可部東サテライトの設置と運営

8月31日午前8時00分、安佐北地区の避難指示が解除され、部外者の立ち居入りが禁止されていた可部東6丁目の被災地域に住民が戻ることになった。それに対応して急遽、安佐北ボランティアセンターでは支援を開始することになり、RQ広島は本部スタッフとしてサテライト設置と運営を手伝った。

■8月31日(日) 可部東サテライト構築(スタッフ8名)



写真:臨時サテライトで高校生に説明する渡邊さん

可部東5丁目高松橋下に可部東臨時サテライトを設置し、5、6丁目への派遣を担う事になった。
机、文房具、一輪車、スコップ等備品が運び込まれ、これまでニーズが確定している5丁目へのボランティアを送り出すと共に、6丁目を回って作業ニーズを聞き出して本部より次々に送られて来るボランティアのマッチングをその場で繋いで作業にあたってもらった。
サテライトのコーディネーター(リーダー)は災害支援NPOの代表である李仁鉄さん(新潟)。専門家として手際がよく仕事を仕分けて行く。資材調達は、東日本大震災以来、災害現場に駆けつけて実直に仕事をこなす渡邊真志さん(和歌山)。これまでの大きな災害現場で蓄積して来た経験/知識を持ち寄って災害救援活動の前線がスムーズに展開している。

避難指示解除が待ちきれず、既に土曜日から多くの住民が自宅に戻っており、そこにVCとは関わり無くボランティアに來られた人々が数多く作業していた。我々が訪ねると、「今更何を・・・。」という険悪な雰囲気も感じられた。

それでも親族だけで行っていた作業が二日目に入って疲労されている家もあり、お声をお掛けすると作業のニーズは、泥出し、瓦礫撤去、家財の搬出、土嚢を移動して仮設道路を構築するなど、拾う事ができた。

6丁目は急勾配の住宅地であるため、6丁目の入り口から100mほど入った場所に資材のデポ地を作った。その場所を



写真:高校生が活躍したSさん宅

探してくれた T さんの家は床上の浸水被害があり、これまで知人等と自力で泥かき作業をして来た。現在、亀山の知人の家を1軒借りて生活している。目先だが、すこしめどが見えて来て、やっとご飯を炊いて食べる気持ちがでて来た。という。

この日は夏休み最後の日曜となった地元の高校生も大勢参加した。

高齢の S さん夫婦が、やはり同年代の親族と働いておられたところに高校生を中心に 10 人が作業をした。終了後にお訪ねすると、若い人たちが本当に良くやってくれて嬉しかったと手を握って涙された。(6丁目被災現場にて)

この日は可部東サテライト全体で 20 件の現場に 210 人のボランティアが働いた。

■9月1日(月) 可部東サテライト公民館へ移動(スタッフ8名)

可部東サテライトを5丁目の中央集会所に移動する。この日からボランティア派遣を、緊急対応のご用聞き方式から、本来の電話等による申し込み方式に戻した。住民のニーズとボランティアのマッチングは全て本部対応となった。スタッフ全員で手分けして、全戸悉皆で『ボランティアがお手伝いします』というビラを持って回った。チラシを入れる事だけではなく、家に戻られた人々の様子を直接聞くことが目的であった。我々が現場に入るのが遅かったというクレームも複数聞こえて来た。



写真：サテライトで説明する宮下さん

今田自治会長からは、今後は新建集会所に本部をおいているので、そこを通して活動してくれるように依頼があった。地区の上端部、及び谷右岸部における土石流の被災状況もこの踏査によって掌握された。

文教大学附属女子高校サッカー部が、独自で入って活動していた情報も聞いた。

■9月2日(火) 可部東サテライトRQ 広島から宮下さんがリーダーに(スタッフ12名)

これまでリーダーシップをとっていた李仁鉄さんが居なくなるので、宮下凌瑚さんが李さんの推薦で可部東サテライトのリーダーを引き継ぐ。

日本財団重機ボランティア部隊、黒澤さんと現場に視察に入り、6丁目の最上部の O さん宅上部の瓦礫を翌日から撤去する段取りを進めた。この日から、他のニーズが減り、可部東にボランティアが集中的に送られる様になり、サテライトが一段と忙しくなった。

現場が宅地の上部に増えてきたので、新建集会所を休憩場所として確保し、また現在工事車両の駐車スペースになっている広場に休憩所を設置するため、小学校のテントを1張設営した。



写真：李さんから引き継ぎ

■9月3日（水）可部東サテライト自治会長遊軍チームの活躍（スタッフ16名）

表2が、可部東6丁目に来たボランティアの配置である。朝、ニーズ係でニーズを確認し、自治会長に人の配置案を報告する。会長預かりの遊軍50名の中に会長は継続作業の家の人数が入っているものと



写真：重機作業待ちの6-17地区

思っていたが、本部に電話連絡して確かめると別であったことが判明。急遽50名の配分を考える。

どの家に何人のボランティアを本部が送っているかの情報をこの地点でこちらから確認しないとサテライトから掴めない弱点が露呈した。

日本財団重機部隊の黒澤さんが作業を開始。

可部東6で最も被害が大きかった右岸の土石流が残っており作業は重機が中心となるが、今後、ボランティアによる人海戦術を

必要とする作業が発生する可能性も大きい。

その地域近隣の住宅及び道路側溝回復の作業を3日は50名で行なった。(福山市ボランティアチーム)

	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日
	金	土	日	月	火	水
V総数	532	770	1047	390	352	331
可部東サテライトV		143	210		238	274
件数			17		18	15

表1 安佐北VC受付ボランティアと可部東のボランティア数、取り扱い件数

午前	午後の移動	
17側溝(自治会)	30	10名追加 40
O家(自治会)	20	N家(自治会) 20
N1波, O2家	20	20
Y家	10	10
H道	20	17側溝(自治会) 20
T家	15	15
H2家	15	15
O3家	10	10
計	140	150

※自治会:会長預かりの遊軍チーム

表2. 9月3日可部東6丁目ボランティア配置表